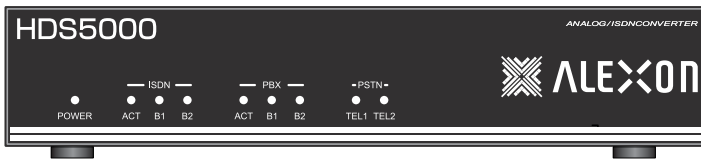


# HDS 5000

## 取扱説明書








# 安全上のご注意

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防ぐため、必ずお守りいただくことを説明しています。本文をよくお読みいただき、内容をよくご理解のうえ、正しくご使用ください。




## ■絵表示の説明

表示内容を無視して誤った使い方をした場合に生じる危害や損害の程度を次の表示で区分し、説明しています。

-  **危険**: 取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負う危険性が切迫して生じることが想定される場合。
-  **警告**: 取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される場合か、軽傷または、物的損害\*が発生する頻度が高い場合。
-  **注意**: 取扱いを誤った場合、使用者が重傷を負う可能性は少ないが、傷害を負う危険性が想定される場合、ならびに物的損害\*のみの発生が想定される場合。

\*物的損害とは、家屋家財及び家畜ペットに関わる拡大損害を示しています。

## ■お守りいただく内容の種類を次の絵表示で区分し説明しています。

-  マークは、危険、警告を含む「注意」を示しています。  
左図の例は、「特定しない一般的な注意、警告、危険の通告」を示しています。
-  マークは、してはいけない「禁止」を示しています。  
左図の例は、「分解禁止」を示しています。
-  マークは、必ず実行していただく「強制」や「指示」を示しています。  
左図の例は、「差込プラグをコンセントから抜くこと」を示しています。

## 輸出する際の注意事項

注意 本製品（ソフトウェアを含む）は、日本国内向けの製品です。海外の規格などには準拠しておりません。  
本製品を日本国外で使用された場合、当社はいっさい責任を負いません。あらかじめご了承ください。  
This unit is designed for use in Japan only and can not be used in any other country.

## 電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスA情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波障害を引き起こすことがあります。この場合には、使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。










## 本機の取り扱い注意、保証、免責に関する付則

- (1) 本書及び本製品の内容の一部又は全部を無断で複写、複製することを禁じます。
- (2) 本書及び本製品の内容に関しましては、将来予告なしに変更することがあります。
- (3) 本書及び本製品は内容について万全を期していますが、万一ご不審な点や誤り、記載漏れなどお気づきのことがございましたら、ご連絡ください。
- (4) 本製品（ハードウェア、ソフトウェア及び関連文書）を運用した結果については、(3) 項に関わらず責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- (5) 本製品の故障、誤動作、不具合あるいは停電時の外部要因によって異常な課金が発生したり、通信などの機会を逸したために生じた損害等の純正経済損失につきましては、いっさいその責任を負いかねます。あらかじめご了承ください。
- (6) 設定値を保存中に停電が発生した場合など、設定データが異常になることがあります。その場合は再起動時に全ての設定値を初期化しますので、再度設定をやり直してください。









## 警告

	<ul style="list-style-type: none"><li>● 万一異常が発生したら、すぐに電源スイッチを OFF にして電源コードを抜く！ 煙、変な音、においがするなど、異常状態のまま使用しないでください。 火災や感電の原因となります。このようなときには、すぐに電源スイッチを OFF にして電源コードを抜き、お買い上げの販売会社や弊社にお問い合わせください。</li></ul>
	<ul style="list-style-type: none"><li>● AC 100V(50 または 60Hz) 以外の電源電圧では使用しない 定格以外の電源電圧で使用しますと火災や故障の原因となります。</li></ul>
	<ul style="list-style-type: none"><li>● 異物を入れない 本機に金属類や燃えやすいものが入ると、火災や感電の原因となります。 万一異物が入った場合、すぐに電源スイッチを OFF にして、お買い上げの販売会社か弊社にお問い合わせください。</li></ul>
	<ul style="list-style-type: none"><li>● 本機付属以外の電源コードを使用しない 火災や故障の原因となります。</li></ul>
	<ul style="list-style-type: none"><li>● 分解したり改造したりしない 本体カバーをはずして内部を触ったり、本機を改造しないでください。 火災や感電、故障の原因となります。 修理の際は、お買い上げの販売会社か弊社にお問い合わせください。</li></ul>
	<ul style="list-style-type: none"><li>● 本機の近くに水や飲料などの液体、ヘアースプレーなどの可燃物の入っている容器を置かない 内部に液体や可燃性の強い気体が入ると、火災や感電、故障の原因となります。</li></ul>
	<ul style="list-style-type: none"><li>● 水・薬品がかかからないように 引火・火災や感電の恐れがあります。</li></ul>
	<ul style="list-style-type: none"><li>● 電源コードを大切に コードに重いものをのせたり、熱器具に近づけたりしないでください。 コードが損傷します。コードに傷がつくと火災や感電、故障の原因となります。 また、コードを加工したり、無理に曲げたり引っ張ったりすると、火災や感電の原因となります。コードが痛んだ場合には、お買い上げの販売会社か弊社にお問い合わせください。</li></ul>
	<ul style="list-style-type: none"><li>● 本機を落としたり破損した場合は そのまま使用すると火災や感電、故障の原因となります。電源スイッチを OFF にして、背面のコネクタをすべて抜いて、お買い上げの販売会社か弊社にお問い合わせください。</li></ul>
	<ul style="list-style-type: none"><li>● 極めて高い信頼性や安全性が必要とされる機器に接続しない 本機は一般オフィスや家庭の OA 機器と接続する用途の製品として設計されています。幹線通信機器や業務の中心となるコンピュータシステム、人命に直接関わる医療機器のような、極めて高い信頼性や安全性が必要とされる機器には、接続しないでください。</li></ul>
	<ul style="list-style-type: none"><li>● サービスコンセントは 300W 以下 本機のサービスコンセントは 300W 迄です。定格以上の機器を接続しますと火災や故障の原因となります。</li></ul>

## 注意

	<ul style="list-style-type: none"><li>●本機は日本国内のみで使用 国外での使用は、電源電圧等の問題により、本機が故障することがあります。</li></ul>
	<ul style="list-style-type: none"><li>●電源プラグを抜くときは電源コードを引っ張らない 電源プラグを抜くときは、必ず電源プラグを持って抜いてください。電源コードを引っ張って抜くと電源コードに傷がつき、火災や感電の原因となることがあります。</li></ul>
	<ul style="list-style-type: none"><li>●ぬれた手で電源プラグにさわらない ぬれた手で電源プラグを抜いたり、差し込んだりしないでください。感電や火災、故障の原因となることがあります。</li></ul>
	<ul style="list-style-type: none"><li>●上にものを置かない 本機の上にものをのせないでください。故障の原因となることがあります。また本機の上に乗らないで下さい。倒れたりしてけがや故障の原因となることがあります。 特にお子様のいらっしゃる家庭では注意をお願いします。</li></ul>
	<ul style="list-style-type: none"><li>●電源プラグとコンセントの定期点検を 電源プラグとコンセントは長時間つないだままですと、ほこりがたまりやす。そのままの状態で使用を続けると、火災や感電の原因となることがあります。 1年に1回は電源プラグとコンセントの定期的な掃除をし、接触不良などを点検してください。</li></ul>
	<ul style="list-style-type: none"><li>●アース端子を接地する 本機は、落雷などの影響を最小限に抑えるための落雷対策を行っていますが、必ず本機のアース端子を使って接地してください。</li></ul>
	<ul style="list-style-type: none"><li>●お手入れのときは 本機の本体が汚れた場合は、柔らかい布に水または中性洗剤を含ませ、よく絞ってから軽く拭いてください（決して、プラグやコネクタ等の外部機器接続部をこの方法で拭かないでください）。 薬品類（ベンジン・シンナーなど）は使わないでください。変質・変色する場合があります。プラグやコネクタ等の外部接続部にほこりがたまった場合は、接続先からはずし、機器を傷つけないよう軽く乾拭きしてください。いずれの場合も、必ず、電源スイッチを OFF にして、背面のコネクタをすべて抜いてから行ってください。</li></ul>
	<ul style="list-style-type: none"><li>●本機を長期間使用しないときは 本機を長期間使用にならないときは、電源スイッチを OFF にして、電源プラグをコンセントから抜き、背面のコネクタを全てはずして保管してください。</li></ul>
	<ul style="list-style-type: none"><li>●雷が鳴り始めたら、電源プラグをコンセントから抜く 落雷の恐れのあるときには、ただちに使用をやめ、本機の電源スイッチを OFF にして、電源プラグを抜き、背面のコネクタから接続ケーブルをはずしてください。落雷時に内部に電流が流れ込むと、本機を破壊する恐れがあります。</li></ul>

## 設置に関する注意

- |   |  |
|---|--|
|  | <p>● 風通しの悪いところに置かない<br/>本機をラック内など、密閉された場所に置かないでください。また、本機を直接積み重ねて使用するなど、本機の上にものを置いて使用しないでください。<br/>熱がこもり、火災、故障の原因となることがあります。</p>   |
|  | <p>● 温度が高くなるところに置かない<br/>直射日光の当たるところや発熱する器具の近くなど高温になるところに置かないでください。熱がこもり、やけどや火災、故障の原因となることがあります。</p>   |
|  | <p>● 湿気やほこりの多いところに置かない<br/>湿気やほこりの多い場所や調理台、加湿器の近くに置かないでください。火災や感電の原因となることがあります。</p>  |
|  | <p>● ラジオやテレビなどのすぐ近くに置かない<br/>ラジオやテレビなどのすぐ近くに置きますと受信障害が発生する恐れがあります。</p>   |
|  | <p>● 不安定な場所やお子様の手が届くところに置かない<br/>ぐらついた台や本機より面積が小さいものの上や傾いたところ、また衝撃や振動の加わるところなど、不安定な場所やお子様の手が届くところに置かないでください。<br/>落ちたり倒れたりして、けがや故障の原因となります。</p>   |
|  | <p>● 指定以外の方法で設置しない<br/>本機指定以外の方法で設置しないでください。<br/>また、布等でくるんだ状態での使用もおやめください。特にビニールやゴム製品が接触している状態での使用もおやめください。火災や故障の原因となることがあります。</p>   |
|  | <p>● 本機より NTT 交換機側にアナログ装置を設置しない<br/>ISDN 回線上に検針器や警報装置等を設置されているときは、必ず装置の会社もしくは装置を取り付けた会社に連絡を取り適切な処置を行ってください。<br/><br/>装置を取り付けたままでは、本機が正常に動作しなくなることがあります。<br/>また、設置されている装置が完全に動作しなくなります。</p> |
|  | <p>● 本機より NTT 交換機側で回線を分配しない<br/>本機より NTT 交換機側で回線を分配すると本機や分配している別の先の装置が正常に動作しなくなることがあります。<br/>ISDN 回線には、DSU を 1 台しか接続できません。</p>   |

## 設置に関する注意



### ● 指定外の接続をしない

指定外の接続をしますと、火災や故障の原因となることがあります。

- ・ クロスの S/T 点ケーブルでバス接続しないでください。
- ・ ISDN-S/T コネクタに ISDN-S/T 端子を持った機器以外を接続しないでください。
- ・ ISDN-U コネクタに ISDN 回線の U 点以外を接続しないでください。
- ・ ISDN-S/T コネクタに接続した機器に DSU が有る場合は、必ず DSU を切り離してください。
- ・ PBX-U コネクタに DSU を 1 台しか接続しないでください。
- ・ PBX-U コネクタに ISDN 機器の U 点以外を接続しないでください。
- ・ TEL コネクタにアナログ回線（一般加入電話）は接続しないでください。
- ・ 電話機を TEL・ISDN-U・PBX-U コネクタに接続しないでください。
- ・ サービスコンセント（300W 迄）に負荷量が大きく変化する機器や負荷量大きい機器を接続しないでください。

## 本機の保証について

### ● 保証期間中は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。ただし、弊社では設置工事・出張修理は行っておりません。

### ● 保証期間を過ぎている場合には

修理によって使用できる場合には、ご要望によって有償で修理させていただきます。ただし、補修用性能部品（機能を維持するために必要な部品）の最低保有期間は、製造打ち切り後 5 年です。

# 目次

1 概要	1
2 製品の構成（梱包内容）	1
3 各部の名称とはたらき	2
3.1 正面図	2
3.2 背面図	3
4 全体接続図	5
5 本機への設定	6
6 発信するには	7
6.1 通常使用する発信経路（ひかり電話／ISDN 回線）を選択する	7
6.1.1 おもにひかり電話で発信する	7
6.1.2 おもに ISDN 回線で発信する	7
6.2 特番 A、特番 B の発信経路（ひかり電話／ISDN 回線）を選択する	8
6.3 電話番号によって発信経路（ひかり電話／ISDN 回線）を選択する	9
6.3.1 発信先電話番号で、発信経路を指定する	9
6.3.2 キャリア番号／局番で、発信経路を指定する	9
6.3.3 携帯電話発信時、登録した番号を自動付加して指定経路で発信する機能	10
6.4 発信する PSTN-TEL ポート（ひかり電話）を選択する	11
6.5 PSTN-TEL ポート（ひかり電話）発信時、「#」を「自動付加する／しない」の指定	11
6.6 ひかり電話／ISDN 回線へ迂回するには	12
6.7 ひかり電話／ISDN 回線へ発信できない電話番号	12
7 着信するには	13
7.1 着信「禁止／許可」設定	13
7.2 モデムダイヤルイン設定	14
7.3 代表組を使うには	14
7.4 ひかり電話で PBX のダイヤルイン／i・ナンバーを使うには	15
7.4.1 PBX にダイヤルインを通知する	15
7.4.2 PBX に i・ナンバーを通知する	15
7.4.3 グローバル着信	16
7.4.4 追加番号の通知方式	16
7.4.5 契約者回線番号の登録	16
7.4.6 i・ナンバーの電話番号登録	17
7.4.7 PSTN-TEL ポートへの 発信者番号／ダイヤルイン番号の通知方式	17
7.5 擬似ダイヤルイン／擬似 i・ナンバーを使うには	18
7.5.1 PBX に擬似ダイヤルインを通知する	18
7.5.2 PBX に擬似 i・ナンバーを通知する	18
7.5.3 割り当て番号の通知方式	19
7.5.4 擬似ダイヤルイン番号の登録	19
7.5.5 擬似 i・ナンバーの登録	19



7.6	同時着信拒否	20
<b>8</b>	<b>その他の機能</b>	<b>21</b>
8.1	送話／受話音量の設定	21
8.1.1	ひかり電話で通話する場合の送話／受話の音量を調整	21
8.1.2	ISDN 回線で通話する場合の送話／受話の音量を調整	21
8.2	設定初期化	22
8.3	メンテナンス用暗証番号	22
8.4	停電時の動作	22
<b>9</b>	<b>故障かな？と思ったとき</b>	<b>23</b>
<b>10</b>	<b>ご参考</b>	<b>24</b>
10.1	INS ネット 64 の付加サービスについて	24
10.2	ひかり電話の付加サービスについて	24
10.3	回線選択電話番号表	25
10.4	電話機からの設定一覧	26
10.5	本機の設定モード一覧	27
10.6	主な仕様	28



# 1 概要

HDS5000（以後、本機）は、NTT ひかり電話<sup>\*</sup>（以後、ひかり電話）を INS ネット 64<sup>\*</sup>（以後、ISDN）用ビジネスホン（以後、PBX）等で、使用できるようにする専用装置です。本機の設定を変更することにより、PBX からの発信を PSTN-TEL（ひかり電話）／ ISDN 回線へ自動で振り分け、かつ、PSTN-TEL（ひかり電話）／ ISDN 回線の着信が可能になります。電話番号毎に発信経路（ひかり電話または ISDN 回線）が指定でき、通話品質とコストを接続先に応じて選ぶことができます。

## 使用上のご注意

- ・ 本機は、ひかり電話専用機です。他の IP 電話アダプタに接続しないでください。
- ・ 本機は、ISDN 回線のインターフェース形態及びレイヤ 1 起動種別において、P-P 接続には対応していません。  
ISDN 回線をご利用になる場合、契約を P-MP 接続（常時／呼毎）に変更する必要があります。
- ・ ISDN 回線のフレックスホン（キャッチホン、通信中転送、三者通話、着信転送）、通話中着信通知はサポートしていません。  
詳しくは、「10.1 INS ネット 64 の付加サービスについて」をご覧ください。
- ・ 本機の電源が入っていない場合、ひかり電話での通話は出来ません。  
ただし、ISDN 回線を使つての通話は可能です（PBX-U 点と ISDN-U 点が直結状態になります）。
- ・ 発信後、呼び出し音が鳴り出すまで無音の状態が少しあります。
- ・ 着信番号の通知条件によっては、PBX-U 点に接続している PBX の設定変更が必要となることがあります。
- ・ 本機の PBX-U 点経由で、データ通信はできません。  
本機の PBX-U 点経由で接続する PBX の S/T コネクタに、G4FAX 等のデータ通信を行う機器が接続されている場合、本機の S/T コネクタに接続し直してください。
- ・ 発着信中／本機設定中／通話中に、PBX との接続ケーブルが抜けた場合、正常に動作しなくなることがあります。  
その場合は、接続 PBX と本機の電源を一旦オフにしてからオンにしてご利用ください。
- ・ NTT 特番（1××の3桁発信等）発信は、ひかり電話の仕様により発信経路を指定する必要が有ります。  
詳しくは、「6.2 特番 A、特番 B の発信経路（ひかり電話／ ISDN 回線）を選択する」をご覧ください。

※ INS ネット 64、NTT ひかり電話は、NTT 西日本㈱／NTT 東日本㈱の商標です。

# 2 製品の構成（梱包内容）

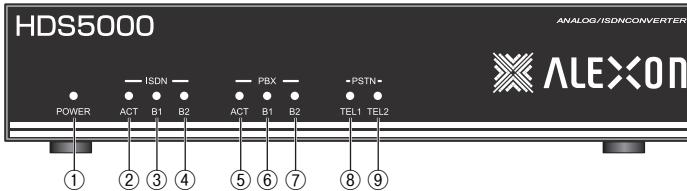
ご購入いただいた製品には次のものが含まれています。ご確認ください。

項目	数
HDS5000 本体	1 台
電源コード	1 本
取扱説明書本書（兼保証書）	本書

注意：接続に必要なケーブルは別途ご用意ください。

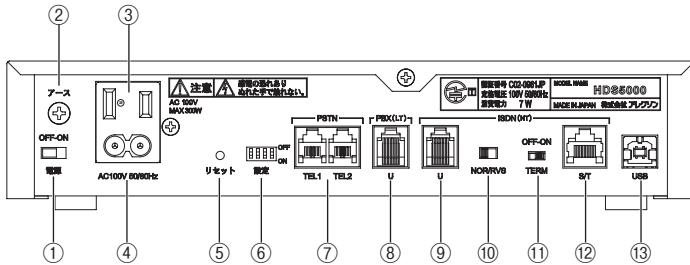
# 3 各部の名称とはたらき

## 3.1 正面図



LED ランプ名	表示状態	表示状態の内容
① POWER	消灯	電源 OFF の状態です。
	点灯	電源 ON の状態です。
② ISDN-ACT	点滅	ISDN 回線と未接続か同期がとれず使用不可の状態です。 (0.5 秒間点灯・0.5 秒間消灯)
	点灯	ISDN 回線と同期がとれて使用可能な状態です。
③ ISDN-B1	消灯	ISDN 側 B1 チャンネルが未使用中です。
	点灯	ISDN 側 B1 チャンネルが使用中です。
④ ISDN-B2	消灯	ISDN 側 B2 チャンネルが未使用中です。
	点灯	ISDN 側 B2 チャンネルが使用中です。
⑤ PBX-ACT (レイヤ1の同期状態)	点滅	PBX-U 点と未接続か同期がとれず使用不可の状態です。 (0.5 秒間点灯・0.5 秒間消灯)
	点灯	PBX-U 点と同期がとれて使用可能な状態です。
⑥ PBX-B1	消灯	PBX 側 B1 チャンネルが未使用中です。
	点灯	PBX 側 B1 チャンネルが使用中です。
⑦ PBX-B2	消灯	PBX 側 B2 チャンネルが未使用中です。
	点灯	PBX 側 B2 チャンネルが使用中です。
⑧ PSTN-TEL1	消灯	PSTN-TEL1 の接続装置がオンフック状態です。
	点滅 1	PSTN-TEL1 の接続装置がオフフック状態、又は PBX 異常です。 (0.5 秒間点灯・0.5 秒間消灯)
	点滅 2	極性反転状態です。未使用時に点滅している場合は、TEL ポート (RJ11) に接続しているケーブルの極性が異なります。 (0.1 秒間点灯・0.1 秒間消灯)
	点滅 3	着信鳴動中です。点滅 2 と繰り返します。 (約 0.03 秒間点灯・約 0.03 秒間消灯)
	点灯	PSTN-TEL1 とひかり電話が未接続状態です。
⑨ PSTN-TEL2	消灯	PSTN-TEL2 の接続装置がオンフック状態です。
	点滅 1	PSTN-TEL2 の接続装置がオフフック状態、又は PBX 異常です。 (0.5 秒間点灯・0.5 秒間消灯)
	点滅 2	極性反転状態です。未使用時に点滅している場合は、TEL ポート (RJ11) に接続しているケーブルの極性が異なります。 (0.1 秒間点灯・0.1 秒間消灯)
	点滅 3	着信鳴動中です。点滅 2 と繰り返します。 (約 0.03 秒間点灯・約 0.03 秒間消灯)
	点灯	PSTN-TEL2 とひかり電話が未接続状態です。

## 3.2 背面図



名称	使用説明
① 電源スイッチ	電源の ON/OFF を行うためのスイッチです。
② アース端子	安定動作と安全の為にアース線を使って接地します。アース線は付属していませんので、ご用意の上、接続してください。
③ AC サービスコンセント	他機の電源（AC100V）として使用可能なサービスコンセントです。 本機電源スイッチと関係なく、常時通電しています。  注意：最大 300W まで使用可能です。300W 以上使用しますと火災の原因となります。
④ 電源コネクタ	付属の電源コードを本機と電源コンセント（AC100V）に接続します。
⑤ リセットスイッチ	本機動作をリセットします。  注意：本機をリセットしても設定内容は変わりません。
⑥ 設定スイッチ	次ページ記載
⑦ PSTN-TEL1, PSTN-TEL2	ひかり電話の TEL ポート（RJ11）に接続します。  注意：PB（プッシュホン）方式のみ対応しています。 アナログ回線（一般加入電話）には接続しないでください。
⑧ PBX 用 U 点コネクタ (PBX-U)	PBX（ISDN 機器）等の U 点（RJ11）に接続します。  注意： ・接続する ISDN 機器が S/T 点接続の場合は、別途 DSU をご用意ください。 ・データ通信はご利用できません。
⑨ ISDN 回線コネクタ (ISDN-U)	ISDN 回線（RJ11）と接続します。
⑩ ISDN 回線リバーススイッチ (NOR/RVS)	ISDN 回線の極性が反転しているときに、極性を変えるためのスイッチです。初期設定は NOR になっています。 (このスイッチは、ISDN 側と PBX 側の極性が連動しています。)
⑪ S/T 点終端スイッチ (TERM)	終端抵抗の ON/OFF を設定します。初期設定は ON になっています。 S/T に接続機器が無い場合は ON、他の機器を接続される場合は、本機から一番遠い ISDN 機器の終端抵抗のみ ON にして、それ以外の ISDN 機器は終端抵抗 OFF に設定してください。

名称	使用説明
⑫ S/T コネクタ (S/T)	<p>他の ISDN 機器 (RJ45) と接続に利用します。 この S/T コネクタは、他の ISDN 機器を接続するための DSU 機能としてのみ機能します。</p> <p>注意：・ ひかり電話のみの接続時は、使用できません。 ・ ファントム給電はしておりませんので給電で動作したり、給電により回線接続を判断する ISDN 機器は接続できません。 ・ S/T コネクタに接続した ISDN 機器で、ひかり電話への発信や着信はできません。 ・ 接続 PBX が、ISDN 回線を 2 チャンネル使用している場合、S/T コネクタに接続した ISDN 機器は通信や通話ができません。 ・ S/T コネクタに接続した ISDN 機器が、ISDN 回線を 2 チャンネル使用しているとき PBX は、ISDN 回線での通話はできません。</p>
⑬ USB ポート (USB)	<p>メンテナンス用です。</p> <p>注意：・ データ通信は出来ません。</p>

## ⑥ 設定スイッチ

【初】：初期値

番号	内容	ON	OFF
1	発信指定	ISDN 回線発信	ひかり電話発信【初】
2	着信指定	着信禁止	着信許可【初】
3	USB	独自 対応 OS:Windows98SE <sup>*1</sup>	標準【初】 対応 OS:Windows2000,Me,XP <sup>*1</sup>
4		常に OFF 必ず OFF で使用してください。	

\*1:Windows98/Me/2000/XPは、Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標もしくは登録商標です。

### 番号 1：発信指定

OFF：0000 + 電話番号、回線選択電話番号に登録した電話番号は、ISDN 回線へ発信します。

それ以外の電話番号<sup>\*2</sup>は、ひかり電話へ発信します。

ON：0000 + 電話番号、回線選択電話番号に登録した電話番号は、ひかり電話へ発信します。

それ以外の電話番号<sup>\*2</sup>は、ISDN 回線へ発信します。

※2 特番発信に関しては、設定スイッチ番号1の設定に関係なく特番発信回線選択 (1\*3X) の設定により、ひかり電話/ISDN 回線へ発信します。

### 番号 2：着信指定

番号1、2の組合せで、着信経路の「着信禁止/許可」を下表のように指定できます。

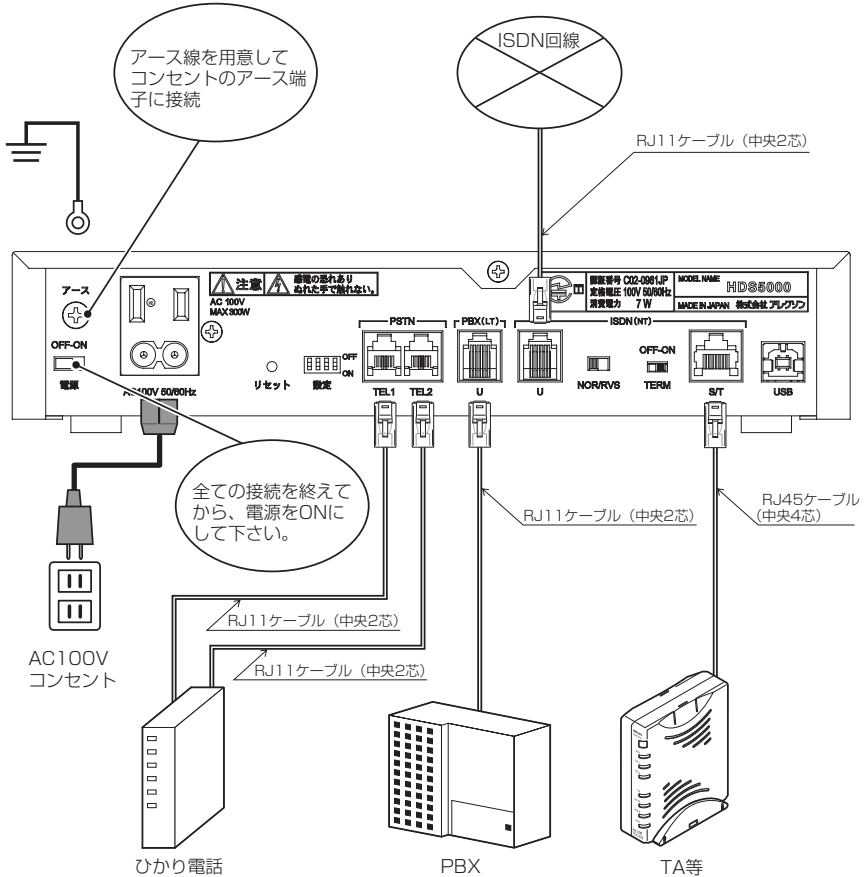
	番号 1：ON (ISDN 回線発信)	番号 1：OFF (ひかり電話発信)
番号 2：ON (着信禁止)	ひかり電話の着信禁止	ISDN 回線の着信禁止
番号 2：OFF (着信許可)	全ての着信を許可	全ての着信を許可【初期値】



●設定スイッチを変更した場合、直後の発信から指定経路で発信します。

# 4 全体接続図

「ひかり電話」と「ISDN回線」を接続する場合の接続例。



## 👉 ご注意

- 機器の接続は、電源 OFF の状態で行ってください。
- 干渉の問題を回避する為に PBX-U 点ケーブルは、他のケーブルと分離して宅内配線を行う必要があります。干渉があると動作不良の原因となります。
- PBX-U 点に接続する PBX が S/T 点接続の場合は、別途 DSU をご用意ください。
- 本機には、接続に必要なケーブルは添付していませんので、別途ご用意ください。
- 本機に ISDN 回線、ひかり電話、PBX を接続する場合、上記「接続図」を必ずご参照ください。間違った接続を行うと、機器の動作不良や故障の原因となります。
- ひかり電話を 1 通話分だけ本機に接続する場合、PSTN-TEL2 へ接続してください。

## 5 本機への設定

本機は、必要に応じて下記のような設定／登録を行うことが出来ます。

- ・ 携帯電話発信時、登録した番号を自動付加して指定した経路で発信する機能設定
- ・ 発信する PSTN-TEL ポート（ひかり電話）選択設定
- ・ ひかり電話／ ISDN 回線へ迂回設定
- ・ ダイヤルイン／ i ・ ナンバー切替設定
- ・ 擬似ダイヤルイン／擬似 i ・ ナンバー切替設定
- ・ 特番 A, 特番 B の発信経路（ひかり電話／ ISDN 回線）選択設定
- ・ 代表組設定
- ・ グローバル着信設定
- ・ 同時着信拒否設定
- ・ 契約者回線番号の登録
- ・ i ・ ナンバーの電話番号登録
- ・ 送受話音量調整

### ●設定方法

①本機に設定を行う場合、PBX より外線をかけるのと同じ手順で、本機を設定モード（「10.5 本機の設定モード一覧」参照）にする必要があります。

PBX の受話器をあげ、外線発信ボタンを押してから「ツー」の発信音を確認します。



「5 5 5 5」を押し、「ツツツ ...」音の後で「ツー」音に変わる事を確認します。

②本機への設定は、接続 PBX より外線をかけるのと同じ手順で、コマンドを入力します。

コマンドの「\*」を押した時に、「ツウツウツウ ...」音が流れます。

設定操作が間違っている場合、「ツーツー」の切断音が鳴ります。

その後、約 2 秒後に「ツー」音に変わり、コマンドを入力することが出来ます。

③設定操作が正しく終了した場合、「ツツツ ...」音が鳴ります。

その後「ツー」音に変わり、次のコマンドを入力することが出来ます。

設定操作が間違っている場合、「ツーツー」の切断音が鳴ります。

その後、約 2 秒後に「ツー」音に変わり、コマンドを入力することが出来ます。

④受話器を電話機に戻すと、本機の設定モードが終了します。

### ●設定の保存／変更

- ・ 設定は、自動保存されますので電源を切っても設定は消えません。
- ・ 設定の変更を行うと以前の設定に対して上書きされます。



## 6 発信するには

本機での発信は、下記のように通常の電話発信と異なることがあります。

- ・発信後、呼び出し音が鳴り出すまでに少し無音時間があります。
- ・本機／ひかり電話の設定や使用条件により、通話前に回線識別音が入ることがあります。
- ・特番は特番発信回線選択（1 \* 3 X）により、ひかり電話もしくはISDN回線へ発信します。
- ・「5501」、「5502」、「5555」の4桁発信は、ひかり電話／ISDN回線で発信できません。「5501」、「5502」、「5555」の4桁発信は、本機の機能設定用番号です。
- ・ひかり電話へ発信する場合は、PSTN-TEL2（PSTN-TEL2使用中は、PSTN-TEL1）から優先的に発信します。
- ・本機の「設定スイッチ番号1」、「その他設定値」、「発信先の電話番号」により、発信経路（ひかり電話／ISDN回線）が決まります。

### 6.1 通常使用する発信経路(ひかり電話／ISDN回線)を選択する

#### 6.1.1 おもにひかり電話で発信する

設定スイッチ番号1：OFF【初期値】にすると、PBXからの外線発信（電話番号：1～32桁）は、ひかり電話で発信します。

ただし、電話番号が次のような場合は、ISDN回線で発信します。

- ・電話番号の先頭に「0000」を付加した番号（「0000」＋電話番号）
- ・特番A、特番B（特番をISDN回線へ発信「1 \* 30」設定した場合、本紙6.2参照）
- ・「回線選択電話番号完全一致」に登録した電話番号（本紙6.3.1参照）
- ・「回線選択電話番号先頭一致」に登録した電話番号（本紙6.3.2参照）

#### 6.1.2 おもにISDN回線で発信する

設定スイッチ番号1：ONにすると、接続PBXからの外線発信（電話番号：1～32桁）は、ISDN回線で発信します。

ただし、電話番号が次のような場合は、ひかり電話で発信します。

- ・電話番号の先頭に「0000」を付加した番号（「0000」＋電話番号）
- ・特番A、特番B（特番をひかり電話へ発信「1 \* 31」設定した場合、本紙6.2参照）
- ・「回線選択電話番号完全一致」に登録した電話番号（本紙6.3.1参照）
- ・「回線選択電話番号先頭一致」に登録した電話番号（本紙6.3.2参照）



- 「5501」、「5502」、「5555」の4桁発信は、ひかり電話／ISDN回線へ発信できません。
- 外線発信ボタンが「0」の場合、「0 + 0000 + 電話番号」となります。
- 電話機をハンズフリーでご使用にならないでください。本機が、周囲の音に反応して正常に動作しない事があります。

## 6.2 特番A、特番Bの発信経路(ひかり電話/ISDN回線)を選択する

NTT 特番は、設定により発信経路をひかり電話、ISDN 回線に指定できます。  
下記、特番 A、特番 B は、ひかり電話で発信できない電話番号です。

### 特番発信経路選択

本機への設定は、必ず「5 本機への設定」をご参照下さい。

特番 A、特番 B を ISDN 回線で発信 1 → \* → 3 0 【初期値】  
特番 A、特番 B をひかり電話で発信 1 → \* → 3 1

#### 特番 A (2006 年 6 月 13 現在)

電話番号	種別
100	100 番通話
102	非常・緊急扱い電話
106	コレクトコール (コミュニケータ扱い)
108	自動コレクトコール
112	共同加入者受付
114	お話し中調べ
121	クレジット通話サービス
122	固定優先解除
125	でんわ会議
134	ダイヤル Q2 パスワード
135	特定番号通知機能
136	ナンバーアナウンス
141	でんわばん、二重番号サービス
145	キャッチホン 2
146	
149	DDX-TP
151	
152	メンバーズネット
159	あいたらお知らせ
161	ファクシミリ通信
162	

#### 特番 A

電話番号	種別
163	
164	DDX-TP
165	メール送受信
166	ビデオテックス接続
167	
169	DDX-TP
178	オフトーク
189	ダイヤル Q2
# 番号	#+4 桁の番号サービス

#### 特番 B (2006 年 6 月 13 日現在)

電話番号	種別
00XX	通信事業者を指定した発信
020	ポケットベル
060	UPT (e コール)
0170	伝言ダイヤル
0180	テレゴング
0190	あんないジョーズ
0570	ナビダイヤル
0910	公専接続
0990	ダイヤル Q2



### 注意

- 特番 A は、回線選択電話番号よりも本設定が優先されます。
- 特番 B は、本設定よりも回線選択電話番号が優先されます。
- 122 で始まる発信 (マイラインプラス解除機能) は、設定スイッチ番号 1 の設定に従います。
- NTT ドコモの「衛星船舶、衛星航空機、航空機電話」(090-300-xxxxx 又は 090-302-xxxxx) の発信は、本機では特番として扱いません。  
本機経由の発信は、個別に回線選択電話番号完全一致/先頭一致に登録が必要です。
- 上記特番仕様の変更が発生した場合、ファームウェアの更新で対応可能です。



### 6.3.3 携帯電話発信時、登録した番号を自動付加して指定経路で発信する機能

携帯電話（090-XXXX-XXXX、080-XXXX-XXXX）への発信時、携帯電話番号の前に登録した通信事業者番号「00XX」を自動付加「する／しない」の設定ができます。

- ・「自動付加する」設定にすると携帯電話への発信は、登録した通信事業者番号を携帯電話番号の前に付加して、指定した経路で発信します。
- ・「184（発信者番号非通知）」、「186（発信者番号通知）」にも、対応しています。発信方法は、従来通り「184-090-XXXX-XXXX」、「186-090-XXXX-XXXX」です。
- ・本設定は、PSTN-TEL1 / TEL2（ひかり電話）共通設定で、PSTN-TEL 毎に設定はできません。

- 携帯電話番号の前に、登録した通信事業者番号を「付加する／しない」の設定と通信事業者番号を付加する場合の発信経路を指定できます。

本機への設定は、必ず「5 本機への設定」をご参照下さい。

登録番号を付加しない	1 → * → 150 【初期値】
ISDN 回線発信 / ISDN 回線迂回発信の時、登録番号を付加する	1 → * → 151
ひかり電話発信 / ひかり電話迂回発信の時、登録番号を付加する	1 → * → 152
全ての発信で、登録番号を付加する	1 → * → 153

- 携帯電話番号の前に付加する、通信事業者番号の登録。

登録番号は、0～9の数字で桁数は1～20桁です。

本機への設定は、必ず「5 本機への設定」をご参照下さい。

携帯電話番号の前に付加する番号の登録	1 → * → 16 → (通信事業者番号) #
削除	1 → * → 16 → # 【初期値：登録無し】



#### 注意

携帯電話への発信で下記の場合、通信事業者番号を付加せず、発信経路はその他の設定に従います。

- 携帯電話番号に通信事業者番号を付加すると、発信番号が32桁を越える発信。
- 電話番号の先頭が「フリーアクセス（0800）」、「将来の為、予約（0900）」の発信。

## 6.4 発信するPSTN-TELポート(ひかり電話)を選択する

PBXの発信者電話番号で、本機の発信するPSTN-TELポート(ひかり電話)を指定できます。

- ・登録可能電話番号の桁数は、1～32桁です。

本機への設定は、必ず「5 本機への設定」をご参照下さい。

PSTN-TEL1から発信する発信者電話番号の登録	5→*→(市外局番からの電話番号)→#
削除	5→*→# 【初期値】
PSTN-TEL2から発信する発信者電話番号の登録	6→*→(市外局番からの電話番号)→#
削除	6→*→# 【初期値】



### ご注意

- 登録電話番号以外(発信者電話番号の未登録等)からの発信は、PSTN-TEL2より発信します。登録電話番号以外からの発信でPSTN-TEL2が使用中の場合、PSTN-TEL1より発信します。
- PBXからの発信者電話番号のサブアドレス情報は無視します。発信者電話番号にてPSTN-TELポート(ひかり電話発信番号)を決定します。
- 登録電話番号からの発信で指定PSTN-TELポートが使用中の場合、ビジートーンとなります。
- ダイヤルイン設定のPBXで本機能を使用する場合、「PSTN-TEL1指定」、「PSTN-TEL2指定」、「契約者回線番号:3\*200市外局番からの電話番号#」の設定(「7.4 ひかり電話でPBXのダイヤルイン/iナンバーを使うには」参照)を必ず行って下さい。
- iナンバー設定のPBXで本機能を使用する場合、「PSTN-TEL1指定」、「PSTN-TEL2指定」、「契約者回線番号」、「追加番号」の設定(「7.4 ひかり電話でPBXのダイヤルイン/iナンバーを使うには」参照)を必ず行って下さい。
- 本機能を使用する場合、「PSTN-TEL1」と「PSTN-TEL2」の両方に電話番号を登録して下さい。どちらか片方のみ発信者電話番号の登録を行った場合、本機能は動作しません。
- 「PSTN-TEL1指定」と「PSTN-TEL2指定」に同じ発信者電話番号を登録した場合、その発信者電話番号からの発信は、常にPSTN-TEL1からとなります。
- 本機背面の「設定スイッチ番号1:OFF」の場合、「0000」を付加しない時に指定PSTN-TELポートから発信します。
- 「設定スイッチ番号1:ON」の場合、「0000」を付加した時に指定PSTN-TELポートから発信します。

## 6.5 PSTN-TELポート(ひかり電話)発信時、「#」を「自動付加する/しない」の指定

PSTN-TELポート(ひかり電話)からの発信時、相手先電話番号の最後に「#」を自動付加「する/しない」の設定ができます。

- ・「#を自動付加する」設定にすると、ひかり電話での発信にかかる時間が短くなります。(ひかり電話は、相手先電話番号の最後に「#」が有ると直ぐに発信します。)
- ・本設定は、PSTN-TEL1/TEL2(ひかり電話)共通設定で、PSTN-TEL毎に設定はできません。

本機への設定は、必ず「5 本機への設定」をご参照下さい。

相手先電話番号の最後に「#」を自動付加しない	1→*→00
「#」を自動付加する	1→*→01 【初期値】



### ご注意

- 本機は、PBXからの相手先電話番号内の「#」をチェックしません。「#を自動付加する」に設定すると、既に相手先電話番号内に「#」が有っても「#」を付加します。
- 「#を自動付加する」に設定しても、ISDN回線での発信は「#」を付加しません。

## 6.6 ひかり電話／ISDN 回線へ迂回するには

ひかり電話へ発信できない（話中、未接続、故障等）場合、設定により ISDN 回線へ迂回発信が可能です。

- ・ 迂回禁止の場合、「ツーター」音が流れ、迂回発信をしません。
- ・ ISDN 回線への迂回許可の時、2秒間の「ツウツウツウ」識別音のあと、ISDN 回線へ迂回発信します。
- ・ ひかり電話間（PSTN-TEL2 から PSTN-TEL1）の迂回許可の時、「ツーター」音のあと、迂回発信します。

本機への設定は、必ず「5 本機への設定」をご参照下さい。

ひかり電話／ISDN 回線 迂回禁止 <sup>*1</sup>	1→*→10	【初期値】
ISDN 回線 迂回許可 <sup>*2</sup>	1→*→11	
ひかり電話間 迂回許可 <sup>*3</sup>	1→*→12	
ひかり電話／ISDN 回線 迂回許可 <sup>*4</sup>	1→*→13	

- ※1 ひかり電話へ発信できない場合、ISDN 回線での迂回発信はしません。
- ※2 ひかり電話へ発信できない場合、ISDN 回線へのみ迂回発信します。
- ※3 PSTN-TEL2 からひかり電話が使用できない場合、PSTN-TEL1 へのみ迂回発信します。
- ※4 PSTN-TEL2 からひかり電話が使用できない場合、PSTN-TEL1 に迂回発信し、PSTN-TEL1 でもひかり電話が使用できなければ、ISDN 回線で迂回発信します。

## 6.7 ひかり電話／ISDN 回線へ発信できない電話番号

下記電話番号は、機能設定用となっていますので、ひかり電話や ISDN 回線へ発信できません。

PBX と PSTN-TEL1 を直結	5501（TEL1 ポートに接続した機器の設定に使用）
PBX と PSTN-TEL2 を直結	5502（TEL2 ポートに接続した機器の設定に使用）
本機の機能設定	5555（本機の設定に使用）



### ご注意

上記以外の 55XX（4桁発信）も機能設定用です。  
他の目的に使用したり、回線選択電話番号に登録しないでください。

## 7 着信するには

本機は、ひかり電話／ISDN回線の電話着信をPBXに通知することができます。

- ・ひかり電話からのナンバー・ディスプレイ（モデムダイヤルイン等）を自動認識します。
- ・ISDN回線の電話着信を禁止することも出来ます。

通話中の電話発信／電話着信があった場合、本機は下記のような動作をします。

- ・PBXで1通話中に、ISDN回線とひかり電話から同時着信の場合、ひかり電話の着信を優先します。
- ・PBXで1通話中に、「ISDN回線からの着信」、「PBXからの発信」が同時に発生した場合、本機がどちらを受け付けるかは不定です。
- ・PBXで1通話中に、「ひかり電話からの着信」、「PBXからの発信」が同時に発生した場合、ひかり電話からの着信を優先します。
- ・PBXで2通話中に、ひかり電話／ISDN回線から新たな着信があった場合、着信は受け付けません。



- 電話機をハンズフリーでご使用にならないでください。周囲の音に反応して正常に動作しない事があります。

### 7.1 着信「禁止／許可」設定

本機背面の設定スイッチ番号1、2の組合せで、着信経路の「着信禁止／許可」の設定ができます。

- ・ISDN網同期をとる為にISDN回線の本機に接続する場合、「ISDN回線の着信を禁止」の設定（設定スイッチ番号1:OFF、設定スイッチ番号2:ON）にしてください。「ISDN回線の着信を許可」の場合、ISDN回線の電話着信もPBXに通知します。
- ・設定スイッチ番号1で指定した、「通常使用する発信経路」と違う経路が、「着信禁止／許可」設定の対象経路となります。
- ・設定スイッチの変更は、直後の発着信から有効です。

		設定スイッチ番号 1	
		ON (ISDN 回線発信)	OFF (ひかり電話発信)
設定スイッチ 番号 2	ON (着信禁止)	ひかり電話の着信禁止	ISDN 回線の着信禁止
	OFF (着信許可)	全ての着信を許可	全ての着信を許可【初期値】

## 7.2 モデムダイヤルイン設定

本機 PBX-U 点コネクタに ISDN-TA を接続して、ISDN-TA のモデムダイヤルイン機能をご使用になる場合、ISDN-TA に接続されているモデムダイヤルイン機器の応答速度により、着信が正常にできないことがあります。

このような場合、設定を「モデムダイヤルイン 2」に変更してください。

本機への設定は、必ず「5 本機への設定」をご参照下さい。

モデムダイヤルイン 1            1 → \* → 50            【初期値】

モデムダイヤルイン 2            1 → \* → 51



### 注意

「モデムダイヤルイン 2」に設定した場合、本機がモデムダイヤルインの着信を無条件に受け付けてしまう為、下記の動作になります。

- ひかり電話によるダイヤルイン着信において、ダイヤルインで指定された電話機が着信中や通話中の場合、契約者番号で着信する電話機のベルが鳴ります。
- ひかり電話による発信と着信が同時に発生した場合、着信によるナンバー・ディスプレイが正しく通知されないことがあります。

## 7.3 代表組を使うには

ISDN 回線で代表組をご利用の場合は下記設定が必要です。

### 代表組

本機への設定は、必ず「5 本機への設定」をご参照下さい。

代表組を使用しない            1 → \* → 40            【初期値】

代表組を使用する                1 → \* → 41



### 注意

「代表組を使用する」を設定する場合は、INS ネット 64 付加サービスの発信専用制御（「インタフェース単位制御モード」）の契約が必ず必要です。

局番なし「116」番（NTT）でお申し込みください。

2006/6/27 現在 工事費・月々の費用共無料です。



## 7.4 ひかり電話でPBXのダイヤルイン/i・ナンバーを使うには

ひかり電話のモデムダイヤルイン機能を使って、ひかり電話の追加番号（マイナンバー<sup>※1</sup>）をPBXに、ダイヤルイン/i・ナンバーとして通知することが出来ます。

※1 「マイナンバー」は、ひかり電話のオプションサービスです。

### 7.4.1 PBXにダイヤルインを通知する

ひかり電話からのモデムダイヤルイン情報を、PBXにダイヤルインとして通知したい場合、下記設定を行ってください。

本機への設定は、必ず「5 本機への設定」をご参照下さい。

設定内容	設定値 / 設定コマンド	参照
グローバル着信する	3→*→01【初期値】	[7.4.3]
ダイヤルインを使用する	3→*→11【初期値】	[7.4.4]
契約者回線番号を設定する	3→*→200→契約者回線番号→#	[7.4.5]
モデムダイヤルインを使用する	1→*→580【初期値】	[7.4.7]

### 7.4.2 PBXにi・ナンバーを通知する

ひかり電話からのモデムダイヤルイン情報を、PBXにi・ナンバーとして通知したい場合、下記設定を行ってください。

本機への設定は、必ず「5 本機への設定」をご参照下さい。

設定内容	設定値 / 設定コマンド	参照
i・ナンバーを使用する	3→*→12	[7.4.4]
契約者回線番号を設定する	3→*→200→契約者回線番号→#	[7.4.5]
i・ナンバー番号2を設定する	3→*→201→i・ナンバー番号2→#	[7.4.6]
i・ナンバー番号3を設定する	3→*→202→i・ナンバー番号3→#	[7.4.6]
モデムダイヤルインを使用する	1→*→580【初期値】	[7.4.7]

### 7.4.3 グローバル着信

契約者回線番号で着信したときのグローバル着信「しない／する」を設定します。

本機への設定は、必ず「5 本機への設定」をご参照下さい。

グローバル着信しない	3→*→00	
グローバル着信する	3→*→01	【初期値】

PBX にダイヤルインを通知する (3 \* 11) 場合、契約者回線番号で着信した時の PBX への通知は、下記ようになります。

- グローバル着信しない：モデムダイヤルインで通知された番号は、PBX に通知する。
- グローバル着信する：モデムダイヤルインで通知された番号は、PBX に通知しない。

### 7.4.4 追加番号の通知方式

ひかり電話の追加番号を PBX に、ダイヤルイン／i・ナンバーとして通知する時に設定します。

本機への設定は、必ず「5 本機への設定」をご参照下さい。

追加番号使用しない	3→*→10	
ダイヤルインを使用する	3→*→11	【初期値】
i・ナンバーを使用する	3→*→12	
擬似ダイヤルインを使用する	3→*→13 <sup>*1</sup>	
擬似 i・ナンバーを使用する	3→*→14 <sup>*1</sup>	

※1 「7.5 擬似ダイヤルイン／擬似 i・ナンバーを使うには」参照

### 7.4.5 契約者回線番号の登録

契約者回線番号は、“ダイヤルイン” や “i・ナンバー” の機能を利用する時、設定が必要です。

本機への設定は、必ず「5 本機への設定」をご参照下さい。

i・ナンバー番号1 (契約者回線番号)	3→*→200→電話番号1→#	
削除	3→*→200→#	【初期値】

- ・契約者回線番号や i・ナンバー番号の桁数は1～32桁までです。
- ・市外局番号から登録してください。

## 7.4.6 i・ナンバーの電話番号登録

i・ナンバーの追加番号を登録します。

本機への設定は、必ず「5 本機への設定」をご参照下さい。

i・ナンバー番号2 削除	3→*→201→電話番号2→#	
	3→*→201→#	【初期値】
i・ナンバー番号3 削除	3→*→202→電話番号3→#	
	3→*→202→#	【初期値】

- ・ i・ナンバー番号の桁数は1～32桁までです。
- ・ 市外局番号から登録してください。

## 7.4.7 PSTN-TEL ポートへの 発信者番号／ダイヤルイン番号の通知方式

本機のPSTN-TELポートに発信者番号／ダイヤルイン番号を通知する方法として、ナンバー・ディスプレイ（モデムダイヤルイン）／PBダイヤルインの方式があります。ひかり電話対応機器の機能にあわせて、本機の設定を行ってください。

本機への設定は、必ず「5 本機への設定」をご参照下さい。

ナンバー・ディスプレイ／モデムダイヤルインを使用する	1→*→580	【初期値】
PBダイヤルイン（通知桁数は1桁）を使用する	1→*→581	
PBダイヤルイン（通知桁数は2桁）を使用する	1→*→582	
PBダイヤルイン（通知桁数は3桁）を使用する	1→*→583	
PBダイヤルイン（通知桁数は4桁）を使用する	1→*→584	



### ご注意

- PBダイヤルインをご使用になる場合、機器からの着信番号送出桁数に合わせて、電話番号の下1～4桁まで設定してください。

## 7.5 擬似ダイヤルイン／擬似 i・ナンバーを使うには

ひかり電話のモデムダイヤルイン機能による着番号情報に関係なく、本機の PSTN-TEL ポート毎に割り当てたダイヤルイン番号／i・ナンバー番号を、PBX に通知することが出来ます。

### 7.5.1 PBX に擬似ダイヤルインを通知する

本機の PSTN-TEL ポート毎に電話番号を割り当て、着信した PSTN-TEL ポートを PBX にダイヤルインで通知したい場合、下記設定を行ってください。

本機への設定は、必ず「5 本機への設定」をご参照下さい。

設定内容	設定値 / 設定コマンド	参照
擬似ダイヤルインを使用する	3 → * → 13	[7.5.3]
PSTN-TEL1 に割り当てる 電話番号	3 → * → 211 → 電話番号 → #	[7.5.4]
PSTN-TEL2 に割り当てる 電話番号	3 → * → 212 → 電話番号 → #	[7.5.4]
モデムダイヤルインを使用する	1 → * → 580 【初期値】	[7.4.7]



#### ご注意

- PSTN-TEL1、PSTN-TEL2 に同じ電話番号を設定すると、接続する PBX の設定により 1 通話中の着信が正常にできなくなる事があります。
- 擬似ダイヤルイン設定は、ひかり電話での発信に関係ありません。

### 7.5.2 PBX に擬似 i・ナンバーを通知する

本機の PSTN-TEL ポート毎に i・ナンバー番号を割り当て、着信した PSTN-TEL ポートを PBX に ISDN 回線の i・ナンバーで通知したい場合、下記設定を行ってください。

本機への設定は、必ず「5 本機への設定」をご参照下さい。

設定内容	設定値 / 設定コマンド	参照
擬似 i・ナンバーを使用する	3 → * → 14	[7.5.3]
PSTN-TEL1 に割り当てる i・ナンバー番号	3 → * → 221n (n: 1 ~ 3) 【初期値: 1 (i・ナンバー番号 1)】	[7.5.5]
PSTN-TEL2 に割り当てる i・ナンバー番号	3 → * → 222n (n: 1 ~ 3) 【初期値: 2 (i・ナンバー番号 2)】	[7.5.5]
モデムダイヤルインを使用する	1 → * → 580 【初期値】	[7.4.7]



#### ご注意

- PSTN-TEL1、PSTN-TEL2 に同じ i・ナンバー番号を設定すると、接続 PBX の設定により 1 通話中の着信が正常にできなくなる事があります。
- 擬似 i・ナンバー設定は、ひかり電話での発信に関係ありません。

### 7.5.3 割り当て番号の通知方式

本機の PSTN-TEL ポート毎にダイヤルイン番号 / i・ナンバー番号を割り当て、着信した PSTN-TEL ポートを PBX に通知する時に設定します。

本機への設定は、必ず「5 本機への設定」をご参照下さい。

追加番号使用しない	3→*→10 <sup>*1</sup>	
ダイヤルインを使用する	3→*→11 <sup>*1</sup>	【初期値】
i・ナンバーを使用する	3→*→12 <sup>*1</sup>	
擬似ダイヤルインを使用する	3→*→13	
擬似 i・ナンバーを使用する	3→*→14	

\*1 「7.4 ひかり電話で PBX のダイヤルイン / i・ナンバーを使うには」参照

### 7.5.4 擬似ダイヤルイン番号の登録

PBX に、着信を受け付けた PSTN-TEL ポートを通知するダイヤルイン番号を登録します。

本機への設定は、必ず「5 本機への設定」をご参照下さい。

PSTN-TEL1 の着信を通知する電話番号	3→*→211→電話番号→#	
削除	3→*→211→#	【初期値】
PSTN-TEL2 の着信を通知する電話番号	3→*→212→電話番号→#	
削除	3→*→212→#	【初期値】

- ・本設定は、「3 \* 13」設定時のみ有効です。
- ・電話番号は、1 ~ 32 桁の数字です。
- ・市外局番号から登録してください。

#### (1) グローバル着信しない

PBX に契約者回線番号を通知したい場合、契約者回線番号を割り当てる PSTN-TEL ポートに契約者回線番号を登録してください。

#### (2) グローバル着信する

PBX に契約者回線番号を通知したくない場合、契約者回線番号を割り当てる PSTN-TEL ポートの電話番号を削除（初期値）してください。

### 7.5.5 擬似 i・ナンバーの登録

PBX に、着信を受け付けた PSTN-TEL ポートを通知する i・ナンバー番号を登録します。

本機への設定は、必ず「5 本機への設定」をご参照下さい。

PSTN-TEL1 の着信を通知する i・ナンバー番号	{	3→*→2211 (契約者回線番号)	【初期値】
		3→*→2212 (i・ナンバー番号2)	
		3→*→2213 (i・ナンバー番号3)	
PSTN-TEL2 の着信を通知する i・ナンバー番号	{	3→*→2221 (契約者回線番号)	
		3→*→2222 (i・ナンバー番号2)	【初期値】
		3→*→2223 (i・ナンバー番号3)	

- ・本設定は、「3 \* 14」設定時のみ有効です。

## 7.6 同時着信拒否

本機 PSTN-TEL1、PSTN-TEL2 に同時着信があった場合、設定で「2着信を PBX に通知」、「1着信を PBX に通知、残りの1着信を切断」の選択ができます。

本機の PSTN-TEL1 / PSTN-TEL2 どちらか1ポートへの呼び出しベルが鳴り始めてから、残りの PSTN-TEL ポートへの呼び出しベルが鳴り始めるまでの時間差で同時着信かどうかを判断し、同時着信許可／拒否の設定に従って PBX に着信を通知します。

同時着信許可（通常の着信として、2着信を PBX に通知）     **3→\*→310**【初期値】  
同時着信拒否（1着信を PBX に通知、残りの1着信は切断）     **3→\*→311**

- ・ 時間差が 0.03 秒以内の場合、同時着信として同時着信許可／拒否の設定に従って、PBX に着信を通知します。
- ・ 時間差が 0.03 秒を超えた場合、通常の着信として無条件に2着信を PBX に通知します。

同時着信拒否設定を行った時の同時着信は、下記①、②の動作を行います。

- ①本機 PSTN-TEL1 / PSTN-TEL2 への呼び出しベルが鳴り始まる時間差が 0.03 秒以内の時、同時着信として本機が最初に着信を検出した PSTN-TEL ポートの着信を PBX に通知します。
  - ②本機が2番目に着信を検出した PSTN-TEL ポートへの着信は、本機がひかり電話に対して着信を拒否します。
- 同時着信拒否設定をしても PBX に2着信を通知する場合、同時着信判定用の時間差を大きくすることにより1着信のみを通知することができます。

同時着信判定用の時間差     **3→\*→32nn**     nn：設定値 00～99

初期値     03（0.03秒）

設定値     00：1秒

01～99：0.01秒～0.99秒（単位：0.01秒）



### ご注意

- 同時着信拒否を使用する場合、ひかり電話 TEL1、TEL2 を「モデムダイヤルイン：使用する」に設定して下さい。  
「モデムダイヤルイン：使用しない」に設定されていると、着信が正常に動作しなくなることがあります。
- ひかり電話 TEL1、TEL2 の「ナンバーディスプレイ」設定は、ご契約内容に従って行ってください。
- 本機に接続している PBX のベルが鳴り始めてから、拒否する着信の切断に最大3秒かかります。  
この間、ひかり電話で新たな発信／着信はできません。

## 8 その他の機能

### 8.1 送話／受話音量の設定

#### 8.1.1 ひかり電話で通話する場合の送話／受話の音量を調整

- ・ 接続 PBX と本機の PSTN-TEL ポート間で、音量の調整が可能です。
- ・ 本設定は、本機 PSTN-TEL1 / PSTN-TEL2 共通設定で、PSTN-TEL 毎に設定はできません。

##### PSTN-TEL ポート受話音量調整

1 → * → 600	音量最小
1 → * → 601	小
1 → * → 602	中
1 → * → 603	大 【初期値】
1 → * → 604	音量最大

##### PSTN-TEL ポート送話音量調整

1 → * → 610	音量最小
1 → * → 611	小
1 → * → 612	中 【初期値】
1 → * → 613	大
1 → * → 614	音量最大



#### ご注意

- PBX 接続後、ひかり電話で通話を行い、音量の調整／確認をお願い致します。
- PBX の子機で音量調節を行わず、「PBX の AGC (オート・ゲイン・コントロール) 設定変更」、「本設定」で音量の調整を行ってください。

#### 8.1.2 ISDN 回線で通話する場合の送話／受話の音量を調整

- ・ 接続 PBX と本機経由の ISDN 回線間で、音量の調整が可能です。
- ・ 本設定は、ISDN 回線の全 Bch 共通設定です。

##### ISDN 回線受話音量調整

1 → * → 620	PSTN-TEL ポート受話音量と同じ設定
1 → * → 621	小
1 → * → 622	中 【初期値】
1 → * → 623	大

##### ISDN 回線送話音量調整

1 → * → 630	PSTN-TEL ポート送話音量と同じ設定
1 → * → 631	小
1 → * → 632	中 【初期値】
1 → * → 633	大



#### ご注意

- PBX 接続後、ISDN 回線で通話を行い、音量の調整／確認をお願い致します。
- PBX の子機で音量調節を行わず、「PBX の AGC (オート・ゲイン・コントロール) 設定変更」、「本設定」で音量の調整を行ってください。

## 8.2 設定初期化

本機の設定を初期化します。

本機への設定は、必ず「5 本機への設定」をご参照下さい。

全設定初期化 <sup>※1</sup>	#→0→*→9→*→90
回線選択電話番号完全一致設定初期化	#→0→*→9→*→91
回線選択電話番号先頭一致設定初期化	#→0→*→9→*→92

※1 メンテナンス用暗証番号は除きます。

## 8.3 メンテナンス用暗証番号

リモート (ISDN 回線経由) で設定やリモートファーム書き換えを受ける時の暗証番号を設定します。

本機への設定は、必ず「5 本機への設定」をご参照下さい。

メンテナンス用暗証番号登録	1 * 74 (4桁の暗証番号)
メンテナンス用暗証番号削除	1 * 74 #



ご注意

- 暗証番号は、0000～9999 までの4桁の数字です。
- リモートでメンテナンスを受ける場合は、お買いあげの販売店またはサービス実施会社にお問い合わせください。
- リモートでメンテナンスを受けるには、本機にISDN回線を接続している必要があります。

## 8.4 停電時の動作

状態	動作
停電になったとき	使用中の通話は切れます。
停電中	ひかり電話は使用できませんが、ISDN回線とPBXを直結しますので、停電対応PBXの場合はISDN回線で通話が可能です。
停電復旧時	停電対応PBXの場合、使用中の通話は切れます。



ご注意

- ご利用されている停電対応PBXの種類やバージョンにより上記の動作をしないことがあります。その場合、PBXの主電源を一旦オフにしてからオンにしてご利用ください。
- 「停電が発生」または「停電から復旧」した場合、PBXによってはご使用できるまでに約1～2分かかることがあります。
- 停電中は、S/Tコネクタに接続したISDN機器は使用できません。
- PBX-U点に接続したPBXがP-P接続で使用している場合、停電中は使用できません。



## 9 故障かな？と思ったとき

こんなとき	原因	確認 / 処置
POWER ランプがつかない	電源プラグが抜けている？	正しく確実に差し込んでください。
	電源スイッチが OFF ？	電源スイッチを ON してください。
	本機が故障？	PBX-U 点と ISDN-U 点を直結していますのでそのまま ISDN 回線ではご利用出来ません。お買い上げの販売店または、サービス実施会社にお問い合わせください。
通話中ではないのにランプが全点灯	本機が故障？	本機が異常の場合は、本機の電源スイッチを OFF にしてください。PBX-U 点と ISDN-U 点を直結しますので、そのまま ISDN 回線ではご利用出来ません。お買い上げの販売店または、サービス実施会社にお問い合わせください。
ISDN-ACT ランプが点滅	ISDN-U コネクタのケーブルが抜けている？	正しく確実に差し込んでください。
	外線使用不可の状態？	ISDN 回線を調べてください。
	ISDN-U で極性が異なる？	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ISDN 回線リバーススイッチを変更してください。</li> <li>・ ISDN-U 用ケーブルをストレートからクロスに変更してください。</li> </ul>
PBX-ACT ランプが点滅	ISDN-U コネクタに ISDN 回路の U 点以外を接続？	ISDN-U コネクタに ISDN 回路の U 点を接続してください。
	PBX と接続する U 点ケーブルが抜けている？	正しく確実に差し込んでください。
	PBX が故障？	PBX を調べてください。
PBX-U で極性が異なる？	・ ISDN 回線リバーススイッチを変更してください。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ISDN 回線リバーススイッチを変更してください。</li> <li>・ PBX-U 用ケーブルをストレートからクロスに変更してください。</li> </ul>
	PBX-U コネクタに ISDN 機器の U 点以外を接続？	PBX-U コネクタに ISDN 機器の U 点を接続してください。
	PSTN-TEL コネクタに接続したケーブルの極性が異なる？	PSTN-TEL コネクタに接続するケーブルの極性を逆にしてください。
PSTN-TEL1/2 ランプが点滅	ひかり電話と接続する TEL ケーブルが抜けている？	正しく確実に差し込んでください。
PSTN-TEL1/2 ランプが点灯	ひかり電話が故障？	接続ひかり電話を調べてください。
	ファームウェアが異常	お買い上げの販売店または、サービス実施会社にお問い合わせください。
PBX-B1/2, PSTN-TEL1/TEL2 ランプが常時点滅	設定スイッチ番号 4 が ON ？	設定スイッチ番号 4 を OFF にしてリセットスイッチを押してください。
ランプ表示が異常	設定スイッチ番号 1 ？ 設定値？ 回線選択電話番号？	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 設定スイッチ番号 1 を調べてください。</li> <li>・ 「0000 + 電話番号」で発信してください。</li> <li>・ 取扱説明書をご参照して設定してください。</li> <li>・ お控えの回線選択電話番号表を確認してください。</li> <li>・ ご希望の電話番号を回線選択電話番号に登録してください。</li> </ul>
希望する電話番号でひかり電話 / ISDN 回線へ発信できない	回線コードを正しく接続している？	正しく確実に差し込んでください。
	設定スイッチ番号 4 が ON ？	設定スイッチ番号 4 を OFF にしてリセットスイッチを押してください。
電話がかけれない	電話コードを正しく接続している？	正しく確実に差し込んでください。
	電話機の呼出音量が「切」になっている？	呼出音量を調節してください。
ベルが鳴らない	電話コードを正しく接続している？	正しく確実に差し込んでください。
	電話機の呼出音量が「切」になっている？	呼出音量を調節してください。

# 10ご参考

## 10.1 INS ネット 64 の付加サービスについて

サービス名称	可否	サービス名称	可否
フレックスホン (キャッチホン)	×	INS ボイスワープ /INS ボイスワープセレクト	○
フレックスホン (通信中転送)	×	INS なりわけサービス	○
フレックスホン (三者通話)	×	INS ナンバー・リクエスト	○
フレックスホン (着信転送)	×	INS メンバーズネット	○
i・ナンバー	○	迷惑電話おことわりサービス	○
ダイヤルイン	○	でんわばん	○
サブアドレス	○	二重番号サービス	○
発信者番号通知	○	空いたらお知らせ 159	○
INS ナンバー・ディスプレイ	○	代表取扱サービス <sup>※1</sup>	○
ネーム・ディスプレイ	○	オフトーク通信	×
Lモード	○	—	—
INS マジックボックス	△	—	—

○： 本機で利用できる「INS ネット 64」の付加サービスです。(但し、接続する ISDN 機器がサービスに対応していて、主に付加サービスの契約が必要です。)

△： 転送機能のみ利用できます。

×： 本機で利用できない「INS ネット 64」の付加サービスです。

※1： INS ネット 64 付加サービスの発信専用制御(「インタフェース単位制御モード」)の契約が必ず必要です。

## 10.2 ひかり電話の付加サービスについて

サービス名称	可否	サービス名称	可否
マイナンバー	○	キャッチホン	×
ダブルチャンネル	○	ボイスワープ	○
ナンバー・ディスプレイ	○	迷惑電話おことわりサービス	○
ナンバー・リクエスト	○	—	—

○： 本機で利用できる「ひかり電話」専用の付加サービスです。別途契約の必要があります。

×： 本機でご利用できません。

## 10.3 回線選択電話番号表

回線選択電話番号完全一致や回線選択電話番号先頭一致の登録内容の覚え書きとしてコピーの上ご利用ください。

「 ~ /500 」

登録番号	電話番号	備考
0	—	—
1	—	—
2	—	—
3	—	—
4	—	—
5	—	—
6	—	—
7	—	—
8	—	—
9	—	—
0	—	—
1	—	—
2	—	—
3	—	—
4	—	—
5	—	—
6	—	—
7	—	—
8	—	—
9	—	—
0	—	—
1	—	—
2	—	—
3	—	—
4	—	—
5	—	—
6	—	—
7	—	—
8	—	—
9	—	—
0	—	—
1	—	—
2	—	—
3	—	—
4	—	—
5	—	—
6	—	—
7	—	—
8	—	—
9	—	—
0	—	—
1	—	—
2	—	—
3	—	—
4	—	—
5	—	—
6	—	—
7	—	—
8	—	—
9	—	—

## 10.4 電話機からの設定一覧

本機への設定は、必ず「5 本機への設定」をご参照下さい。

設定項目	ダイヤル入力	概要
回線選択電話番号完全一致	0*(登録番号)(電話番号)# 0*(登録番号)#[初期値:登録無し]	登録番号は3桁固定(000~499、最大500件) 電話番号は1~32桁まで
回線選択電話番号先頭一致	9*(登録番号)(電話番号)# 9*(登録番号)#[初期値:登録無し]	登録番号は3桁固定(000~499、最大500件) 電話番号は1~32桁まで
ひかり電話発信時に相手先番号の最後に「#」を自動付加	1*00 1*01[初期値]	ひかり電話発信時、最後に「#」を自動付加しない ひかり電話発信時、最後に「#」を自動付加する
迂回発信	1*10[初期値] 1*11 1*12 1*13	ひかり電話/ISDN 迂回禁止 ISDN 迂回許可 ひかり電話迂回許可 ひかり電話/ISDN 迂回許可
携帯電話発信に通信事業者番号を自動付加	1*150[初期値] 1*151 1*152 1*153  1*16(通信事業者番号)# 1*16#[初期値:登録無し]	携帯番号の前に通信事業者番号を付加しない ISDN 回線への発信/迂回時、通信事業者番号を付加する ひかり電話への発信/迂回時、通信事業者番号を付加する 全ての発信/迂回時、通信事業者番号を付加する  携帯番号の前に付加する通信事業者番号の登録 通信事業者番号は、1~20桁まで 登録の削除
特番発信回線選択	1*30[初期値] 1*31	特番A、特番BをISDNで発信 特番A、特番Bをひかり電話で発信
代表組	1*40[初期値] 1*41	代表組を使用しない 代表組を使用する
モデムダイヤルイン	1*50[初期値] 1*51	モデムダイヤルイン1 モデムダイヤルイン2
PBダイヤルイン	1*580[初期値] 1*581 1*582 1*583 1*584	PBダイヤルインを使用しない PBダイヤルイン(通知桁数は1桁)を使用する PBダイヤルイン(通知桁数は2桁)を使用する PBダイヤルイン(通知桁数は3桁)を使用する PBダイヤルイン(通知桁数は4桁)を使用する
PSTN-TELポート(ひかり電話)の送話/受話音量	1*600 1*601 1*602 1*603[初期値] 1*604	受話音量 最小 小 ↕ 中 大 受話音量 最大
	1*610 1*611 1*612[初期値] 1*613 1*614	送話音量 最小 小 ↕ 中 大 送話音量 最大
ISDN回線の送話/受話音量	1*620 1*621 1*622[初期値] 1*623	PSTN-TELポート受話音量と同じ設定 受話音量 小 ◆ 中 受話音量 大
	1*630 1*631 1*632[初期値] 1*633	PSTN-TELポート送話音量と同じ設定 送話音量 小 ◆ 中 送話音量 大
ダイヤルイン/i・ナンバーグローバル着信  追加番号機能	3*00 3*01[初期値]	グローバル着信しない グローバル着信する
	3*10 3*11[初期値] 3*12 3*13 3*14	追加番号使用しない ダイヤルインを使用する i・ナンバーを使用する 擬似ダイヤルインを使用する 擬似i・ナンバーを使用する

設定項目	ダイヤル入力	概要
i・ナンバー (契約者回線番号) 電話番号登録	3*200(電話番号)#	i・ナンバー番号1(契約者回線番号) 電話番号は1~32桁まで
	3*200#[初期値:登録無し]	
	3*201(電話番号)#	i・ナンバー番号2 電話番号は1~32桁まで
	3*201#[初期値:登録無し]	
	3*202(電話番号)#	i・ナンバー番号3 電話番号は1~32桁まで
	3*202#[初期値:登録無し]	
擬似ダイヤルイン 電話番号登録	3*211(電話番号)#	PSTN-TEL1ポートに割り付ける電話番号 電話番号は1~32桁まで
	3*211#[初期値:登録無し]	
	3*212(電話番号)#	PSTN-TEL2ポートに割り付ける電話番号 電話番号は1~32桁まで
	3*212#[初期値:登録無し]	
擬似 i・ナンバー	3*2211[初期値]	PSTN-TEL1ポートに割り付ける i・ナンバー番号1
	3*2212	i・ナンバー番号2
	3*2213	i・ナンバー番号3
	3*2221	PSTN-TEL2ポートに割り付ける i・ナンバー番号1
	3*2222[初期値]	i・ナンバー番号2
	3*2223	i・ナンバー番号3
同時着信許可/拒否	3*310[初期値]	同時着信許可(2着信をPBX-U点に通知)
	3*311	同時着信拒否(1着信をPBX-U点に通知)
PSTN-TEL1/TEL2ポート (ひかり電話)発信指定 で発信者電話番号の登録	5*(電話番号)#	PSTN-TEL1発信を指定する発信者電話番号の登録 電話番号は1~32桁まで
	5*#[初期値:登録無し]	
	6*(電話番号)#	PSTN-TEL2発信を指定する発信者電話番号の登録 電話番号は1~32桁まで
設定初期化	#0*9*90	全設定初期化
	#0*9*91	回線選択電話番号完全一致設定の初期化
	#0*9*92	回線選択電話番号先頭一致設定の初期化
メンテナンス用暗証番号	1*74(暗証番号)	暗証番号は4桁固定
	1*74#[初期値:登録無し]	暗証番号削除

## 10.5 本機の設定モード一覧

本機には、下表のような3種類の設定モードがあります。

設定モード	ダイヤル入力 (コマンド)	モード内容
PBXとPSTN-TEL1を直結	5501	本機のPSTN-TEL1ポートに接続された機器の設定に使用
PBXとPSTN-TEL2を直結	5502	本機のPSTN-TEL2ポートに接続された機器の設定に使用
本機の設定	5555	本機に設定を行うときに使用

### ●モードの設定方法

本機を設定モードにする場合、PBXより外線をかけるのと同じ手順で、設定モードコマンドを入力します。

- ①PBXの受話器をあげ、外線発信ボタンを押してから「ツ～」の発信音を確認します。
- ②「設定モードコマンド」を押し、「ツツツ...」音を確認します。
- ③「ツ～」音に変わると本機が、設定モードになります。



- 「55XX」(4桁発信限定)を押し、PBXの「発信ボタン」を押して「ツツツ...」の音の後で「ツ～」の音に変わる事を確認してください。

## 10.6 主な仕様

項目		サービス内容	
PBX側	適用回線	INS ネット 64 (ISDN)	
	インターフェース構造	2B+D (基本インターフェース) ピンポン方式 (音声のみサポート)	
	インターフェース形態及びレイヤ1 起動種別	P-MP 常時、P-MP 呼毎、P-P	
	回線接続コネクタ	6pin モジュラージャック (RJ-11)	
	供給電圧	約 59V (無負荷時)	
ISDN側	適用回線	INS ネット 64	
	インターフェース構造	2B+D (基本インターフェース) ピンポン方式	
	インターフェース形態及びレイヤ1 起動種別	P-MP 常時 (P-MP 呼毎と接続可、P-P 接続不可)	
	回線接続コネクタ	6pin モジュラージャック (RJ-11)	
	バス配線接続コネクタ (S/T 点)	ISO8877 準拠 8pin モジュラージャック (RJ-45) 給電なし	
	利用通信サービス	INS ネット 64	伝送速度 : 64kbps × 2ch
PSTN側	インターフェース	6pin モジュラージャック (RJ-11) × 2 極性反転検出機能、断線検出機能	
	ダイヤル方式	PB (プッシュホン)	
その他	装備	状態表示ランプ×9、折り返し試験機能付き DSU 内蔵 U 点(極性切り替え SW 有り)、停電時 PBX-U 点 ISDN-U 点直結機能	
	電源	商用電源	AC100V ± 10% (50/60Hz)
	サービスコンセント	300W AC100V	
	消費電力	約 7 W	
	外形寸法	250mm (W) × 153mm (D) × 54mm (H)	
	重量	約 1.4kg	
	使用環境	温度 0 ~ 40℃ 湿度 20 ~ 80% (但し結露なきこと)	

※仕様および外観は、性能改善等により予告なく変更する場合があります。



# 保証書

機器名 HDS5000  
製造番号

お買い上げ日 年 月 日  
保証期間 お買い上げ日より1年間有効

お客様様	貴社名/ご芳名	
	ご住所 〒	
	部署名 TEL	ご担当者名 FAX
販売店	店名	住所

## 保証規定

- ◆保証期間内に取扱説明書、本体貼付ラベル等の注意書に従った正常な使用状態で故障した場合には、弊社が無料修理いたします。
  - ◆保証期間内に故障して無料修理を受ける場合は、商品と本書をご持参ご提示のうえ弊社に依頼して下さい。
  - ◆保証期間内でも次の場合には有料修理になります。  
使用上の誤りおよび不当な分解や修理・改造による故障および損傷  
お買い上げ後の取付場所の移動、輸送、落下などによる故障および損傷  
火災、地震、水害、落雷、その他の天災地変、公害や異常電圧による故障および損傷  
本書のご提示がない場合  
本書にお買い上げ年月日、お客様名、販売店名の記入のない場合、あるいは字句を書き換えられた場合  
消耗品の交換
  - ◆お客様より、製品を発送いただく際の運送費につきましてはお客様のご負担とさせていただきます。予め、ご了承願います。
  - ◆本書は日本国内においてのみ有効です。  
This warranty is valid only in Japan.
  - ◆本書は再発行いたしませんので紛失しないよう大切に保管してください。
- ※この保証書は本書に明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。したがってこの保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありません。
- ※保証期間経過後の修理などについてご不明の場合は、お買い上げの販売店にお問い合わせください。
- ※有償・無償にかかわらず、弊社では出張修理及び設置工事はいりません。

## 株式会社 アレクソン

お問い合わせ先 サポートセンター 伊丹 ☎072-780-1101  
受付時間：月曜～金曜 9:20～12:00・13:00～17:00  
(祝祭日、年末年始、弊社休日を除く)  
<http://www.alexon.co.jp/>



本書の内容の一部または全部を無断転載、無断複写することは、堅くお断りします。  
本書の内容については、将来予告なしに変更することがあります。